

さわやかトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

一隅を照らす十島の教育

八月 —— 気付きの旅

十島村教育長 原口 英典

第37回十島村教育研究大会が、8月9日～10日の二日間にわたって、すべての先生方の参加のもと、今年も開催された。

十島の各島々に勤める先生方。今でこそテレビ会議を使い、学校間の交流が間接的に持てるようになったが、それでも直接意見交換したり、議論したりはできない。それらを乗り越え、離島にあっての難点を何とかしようということで、年に1回集まって授業力や教師力、人間力を高めるべく、年会費を一人一人出し合い、往復の船賃や宿泊料も個人で負担して、夏季休業中を利用して、自主研修を創造している。学び合う、学ぼうとする教職員こそ子どもの前に立てる。このような意味ある研修の場を「村教研」という名のもと、37年も繋げてきている所はそうそうないのではないかと。

離島だからこそ、少人数の学校という勤務地だからこそ、喜びの一方で苦悩も大きい。複式学級の授業の難しさ、飛び複式の授業ともなればなおさら。それらを他校で経験した教師がいるわけではない。中学校にあっては、これまで教えたことのない教科をも複数もたざるをえない。定期テストも作る。

そのような初めての体験やそれらに真摯に向き合おうとするがゆえの人知れずの苦悩。それらを持ち寄って、お互いに切実に解決策を模索している教師の一群れ。そのような教育者と子どもたちの魂と魂の出会い。ここ十島には、本物の教育者魂に灯をつけるものが潜んでいる。ごまかしのきかない教育が展開されている。

八月というこの月は、十島村の島々に勤める私たちに大切なものを気付かせてくれる月でもある。

「子どもをどう見るか」「生きる価値を何に見いだすか」「学ぶとは、また、教えるとは?」「人と人のつながりとは?」「自分を支えてくれる人や物への感謝」等。

気付きの旅は、実は、不自由や不便さを「受けて立つ生き方」とも相通じるものなのかも知れない。「受けて立つ」とは「肯定的に生きる」ということだ。つまり、自己肯定感や「敬の精神」が根底になければ、気付きも浅いのではあるまいか。気付きの機会を、日常の「遠ざけようとしている」現実の中にあるように思われる。



写真は十島村教育研究大会に参集の先生方

【二学期始まる】

村内各小・中学校二学期は、9月3日(月)に一斉にスタートしました。

各学校の児童生徒数は、次のとおりです。

学校名	口之島	中之島	平島	諏訪之瀬島	悪石島	小宝島	宝島	計(人)
小学生	6	8	5	6	5	9	7	46
中学生	3	1	2	5	2	2	2	17
計(人)	9	9	7	11	7	11	9	63

【転入2人のお友達、ようこそ十島村へ】

二学期に鹿児島市から、宮脇麗也君と永井義隆君の2人が、諏訪之瀬島分校の中学2年生に転入学しました。

恵まれた自然と人情あふれる十島村で大きく成長してほしいと願っています。先生方、地域の方々よろしくお願いたします。

【新しく一人の先生が赴任】



2人のお友達の転入学に伴い、諏訪之瀬島分校に羽生竜将先生が赴任されました。どうぞよろしくお願いたします。

写真は鹿児島教育事務所の先生方も見送りしている場面

絆 シリーズ 山海留学生として学ぶ

肥後 葵衣 現在堺市高校1年生

私は、大阪の小学校を卒業してから山海留学生として口之島中学校に入学しました。

そのきっかけは、私のいとこが中学生の時、口之島に行っていて、勉強が分かりやすかったと言っていたからです。

留学生の体験をして気付いたことは、多くの人とのコミュニケーションができ、都会の勉強より勉強がぐわしく教えてもらえるのでとても分かりやすく、島しかできない体験がたくさんできることです。

口之島に三年間暮らしてよかったことは、お年寄りの方々とたくさんお話ができ、戦争中の話や農業のことなどいろいろなお話ができたことです。

親元を離れて改めて思ったことは、離れて暮らしてみると、親に感謝することをたくさん見つけることができます。皿洗いや洗濯物を干したりすることは、とても大変です。でも、親はこれらを毎日しているので改めて親に感謝しなければいけないと思いました。

山海留学生として里親のもとでの生活は、今、学校や家庭生活に大いに生かされています。

【子どもたちの作品】 村連合修学旅行文集より

「十島村小学校連合」修学旅行の思い出

諏訪之瀬島分校 小6年 鎌田 健吾

水族館

急に船が一日早く来ることになって、修学旅行が一日増えました。その一日を使って水族館に行きました。とても大きなジンベエザメを見て「僕もあんなに大きかったらいいなあ」と思いました。ラッコやイルカのショーも見られてとても楽しかったです。もうすぐイルカの赤ちゃんが生まれるとのことなので、生まれたら見に行きたいです。

ろうそく作り

自主研修のろうそく作りは、僕が修学旅行の中でもいちばん楽しみにしていたものです。なぜかという、僕は将来蠟細工師になりたいという夢があるからです。その初めての第一歩を踏み出す、とてもいい経験になりました。

ろうそくの作り方を教えてくださったお店の方、ありがとうございました。

これからもろうそく作りをがんばります。

グリーンランド

グリーンランドに、みんなで行けてとても楽しかったです。特に、NIOやGAOのような絶叫系が楽しかったです。最初は、尚多郎君や陸斗君は少し怖がっていましたが、祐太君と説得したら乗ってくれて、結局2回も乗りました。

だけど、酔ってしまってジェットコースターは、何回も乗るものではないことを学びました。

また、熊本に行ったらグリーンランドに行きたいです。

修学旅行の感想

この修学旅行では、いっぱい友達もできて一緒に遊べてとても楽しかったです。この同じメンバーで会うことは、もうないかもしれませんが、もしあったら修学旅行の事とかをいっぱい喋りたいです。

楽しいことやドキドキすること、わくわくすることがい

っぱいあって5日間が短く感じました。両親や先生方、教育委員会の方々、とても楽しい修学旅行に行かせていただきありがとうございました。

十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島小・中学校

教頭 野本 正樹

小中併設の極小規模校への赴任が決定したとき、これまで自分が経験してきたものが、どれだけ通用するのか、自分がどこまでできるのかという不安でいっぱいでした。赴任して間もないころ、自分が何に不安をもっていたのか忘れてしまいました。それが、悪石島小中学校が私にまず与えてくれたものでした。毎日が楽しいのです。

これまで、いつでも欲しいものが手に入る生活をしていましたから、島での生活に不安はありました。でも、実際に生活してみると不便は感じません。島民の皆さんと共に生活することで、逆にこれまでの自分の生活を省みるよい機会になっています。無いから不便なのではなく、本当に必要なものは何なのかを考えるようになったということだと思います。今送っている自分の生活に感謝しています。

1対1での授業は、自分の指導法を見直すまたとない機会になります。1人の児童生徒との関わりは、これまで自分が見過ごしてきてしまったものを振り返る機会になります。個に応じた指導、つまずきの発見、自分がつくる表情一つまでもが、全て反省材料となり次への意欲となります。如何に児童生徒に支えられているのかということを感じずにはいられない毎日です。まさに「教育の原点」に身を置いている幸せを感じています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

誰でも環境の変化には不安を感じます。今よりも不便と言われればなおさらです。しかし、その中に身を置かなければ真偽はわかりません。教師としての子どもとの関わり、本当の意味での地域との関わり、絶対に他では経験できないものを得ることがどれだけ幸せか、十島村の教育にはその答えがあるように思えてなりません。より多くの方にここ十島村で教鞭をとってほしいと願っています。

【入賞おめでとうございます】

第50回記念南日本書道展

金賞・森清香(小宝島分校小2) ・森文音(小宝島分校小5)
銀賞・岩下孟司(小宝島分校小2) ・森祐太(小宝島分校小6)
銅賞・清水宏太郎(小宝島分校小4)

【セブンアイランド図書館の御利用を!】

本村の「セブンアイランド図書館」は、本村独自の伝統のある文化的事業です。

読書は、心の栄養源とも言われます。これから読書の秋に向かいます。多くの方々の御利用を願っています。

【熱中症の予防に努めましょう】

まだまだ酷暑が続きます。熱中症にかからないように気をつけましょう。

・帽子を着用・日陰を利用、水・塩分の摂取、こまめの休憩等